車埋もれ曲がる電柱

台風19号被災の釜石・佐須地区ルポ

道路が陥没し、車が通行できなくなった佐須地区。重機で復旧する工事が始まった＝15日、釜石市平田

市道陥没し一時孤立

橋崩れ住宅庭には流木

台風19号で釜石市平田の佐須地区（25世帯、88人）は、地区の入り口となる市道が川の氾濫で陥没し、車が通行できなくなり一時孤立した。重機を使った道路の復旧が始まった15日、暴風雨の爪痕が残る集落を歩いた。

太平洋に面する同市平田の尾崎半島の北側に位置する尾崎白浜地区に車を止め、土砂でぬかるんだ林道を15分ほど歩くと佐須の集落が見え始めた。手前の市道は深さ2～3㍍、長さ約50㍍にわたり陥没。乗り捨てられた車などがあった。

陥没した市道のそばの民家の基礎の一部はむき出しになり、ガードレールも押し曲げられ、車は大きな岩や土砂に埋もれていた。

この民家が実家の漁業佐々木健さん(29)＝上平田地区＝は、消防団の見回りで実家近くを通った13日未明、川が氾濫していたという。いったん避難し、同日午前8時ごろ戻ってくると道路は陥没していた。14日正午前には水が引き、歩いて通れるようになったが「想像を上回る被害にあぜんとしている」と肩を落とした。

記者はさらに集落を進むと、電柱が曲がり、民家につながる橋は崩落。山からの水が道に流れ出し、道の両脇には土砂が堆積していた。庭に泥や流木が流れ着いた家も多く、住民は片付けに追われた。

電気やガス、通信に影響はなかったが、一時断水した。断水は14日解消され、陸上自衛隊の隊員が給水に備え、待機していた。飲料水の箱入りを担ぎ歩いて運ぶ住民の姿もみられた。

佐須地区に住む漁業佐々木広さん(74)は「東日本大震災の教訓を生かし、食料を1週間分ストックしていた。当面、飲食は大丈夫だが、仮設道路でもいいので早く道が通り、市街地に行けるようにしてほしい」と早期復旧を願った。

市街地に通じる一本道が遮断されると、住民は身動きが取れなくなる。近年、大規模災害が続く日本列島。山あいの集落を歩き、その対策の在り方を改めて考えさせられた。

（釜石支局・八重畑龍一、林昂平）

一時孤立し、今でも断水が続き不安な日々を過ごしている入所者ら

孤立解消も不安続く

宮古・障害者支援施設　水道復旧見通せず

宮古市崎山の障害者支援施設わかたけ学園（中村猛園長、利用者113人）と知的障害児施設はまゆり学園（佐々木俊彦園長、園生16人）は台風19号の影響で一時孤立状態となった。14日夕までに解消したが、いまだ断水が続く。飲料水が不足し風呂にも入れず、不便な生活を強いられている。

両園とも入所型で、台風が最接近した12日夜から13日朝にかけて、両園計約120人の利用者や職員らが不安な夜を過ごした。土砂崩れなどで道路は寸断され、孤立状態に。この間、県の防災ヘリによる物資や水の支援が行われた。

停電は14日に復旧し、15日に道路は緊急車両などが通行可能となったが、水道の復旧の見通しは立っておらず、市は16日から給水車で支援する方針だ。

中高生から20代の園生が入所するはまゆり学園の佐々木園長(56)は「飲料水が不足し、入所者は風呂にもまだ入れていない。東日本大震災のときは水や道路に被害はなかったので孤立は考えにくかった」と語った。

給水支援 温かさに感謝

久慈　自衛隊が入浴施設開所

台風19号の影響で久慈市宇部町では水道管が破損し、約600戸で断水が続いている。15日は自衛隊が給水支援に入り、飲み水や風呂を提供した。

宇部公民館では航空自衛隊第6高射群の隊員が三沢基地（青森県）から訪れ水タンク車で飲料水を提供。同市宇部町の大沢幸子さん(71)は「風呂の水をためてトイレなどに使っているが、何をするにも水は必要なので大切に使いたい」と語った。

陸上自衛隊八戸駐屯地（同）の第9後方支援連隊が簡易入浴施設うみねこの湯（午後4時～同8時）を開設。2日ぶりに湯に漬かった同市宇部町の宇部定男さん(66)は「浴槽は広いし温かい湯でさっぱりした」と感謝した。

同市宇部町は宇部川から越水し周辺の住宅や店舗に水や土砂が流入。住民は泥をかいて消毒用の石灰をまく作業に追われている。

2日ぶりの湯船に漬かりリラックスした表情を浮かべる住民。簡易入浴施設で心身の疲れを癒やした

同町ではこのほか、こだま保育園前と宇部中、市立園芸センターの3カ所で市などによる給水支援が行われている。市は水道の復旧まで1週間ほどを見込み、市と自衛隊はそれまで支援を継続する予定。

ボランティア活動に汗

釜石市が受け入れ開始

釜石市で台風19号の災害ボランティアの受け入れが始まり、県内外の十数人が15日、被災した住家の泥出しや土砂の撤去などに励んだ。自力で片付けが困難な高齢者らのニーズが高まる可能性があり、関係者は継続的な参加を求める。

同市八雲町では、陥没し波打った道路を応急復旧したり、住家前の石や土砂を撤去したりした。力を借りた川崎ノブさん(86)は「近所は高齢者が多く、自分でやろうとしてもできない」と感謝した。

市災害ボランティアセンターは市社会福祉協議会が14日、同市鈴子町のシープラザ釜石に開設。同日は釜石シーウェイブス（SW）RFCの選手約50人を含む61人が市内で家財道具の搬出や泥出しに汗を流した。

15日に活動した仙台市泉区の専門学校生佐々木璃生(りお)さん(19)＝釜石市平田出身＝は「古里を見て言葉が出なかった。実家の近所も土砂が入ったと聞いた。地元が好きなので、できることをしたい」と話した。

同センタースタッフの小原裕也さん(26)は「長靴や軍手、マスク、飲食物を持参してほしい」と協力を呼び掛ける。受け付けは午前9時～午後4時。問い合わせは同センター（080・5737・2959）へ。

陥没した道路を補修するボランティア

ボランティア応募受け付け

久慈市、派遣要請も

久慈市は15日、市役所内に災害ボランティアセンターを設置した。派遣要請とボランティア応募を受け付ける。問い合わせは平日午前9時～午後3時、同センター（0194・54・8006）へ。

幹線道通行止め続く

台風19号の影響で、県内では幹線道路の通行止めが続いている。三陸国道事務所などによると、普代村の三陸道普代インターチェンジ（IC）と釜石市の同釜石唐丹ICが使用できなくなっているほか、同村の国道45号と宮古市崎山の国道45号宮古第3トンネルが全面通行止めとなっている。いずれも復旧のめどは立っていない。

県によると15日午後2時現在、県道などの県管理道路は13路線16カ所で全面通行止めとなっている。

国道、県道とも、片側交互通行や大型車の通行が規制されている箇所が多数あり、同事務所などは最新の道路情報の確認を呼び掛けている。

友好の力 泥かき援助

矢巾町　普代に職員らを派遣

普代村と友好交流協定を結ぶ矢巾町は15日、町職員や町消防団員ら約20人を同村に派遣し、台風19号の災害復旧活動を行った。甚大な被害に心を痛めつつ、一日も早い復興に向けて懸命に作業した。

三陸鉄道普代駅前では村職員らと泥かきを行い、重く粘り気のある泥をスコップで集めて一輪車に載せて搬出した。村役場近くに設置された災害ごみの仮置き場では、被災した村民が切れ目なく持ち込むがれきや浸水した家具などの搬出、分別作業に汗を流した。

同駅構内の「ふだいのアンテナショップ」も浸水。同店を運営する村第三セクター・青の国ふだいの在原光明営業部長(52)は「14日まで3、4人で作業していたが、人が増えて一気に片付いた」と感謝した。

矢巾町が13年の県央豪雨で被害を受けた際は、同村の消防団員が同町でがれき撤去などの作業に取り組んだ。

同町職員らは16日以降も数人が支援活動する。同町防災安全室川村学室長補佐(46)は「被害は想像以上に大きく、少しでも役に立ちたい。交流と同様に息の長い支援をしていきたい」と力を込めた。

普代村で懸命に泥をかき出す矢巾町の派遣職員ら

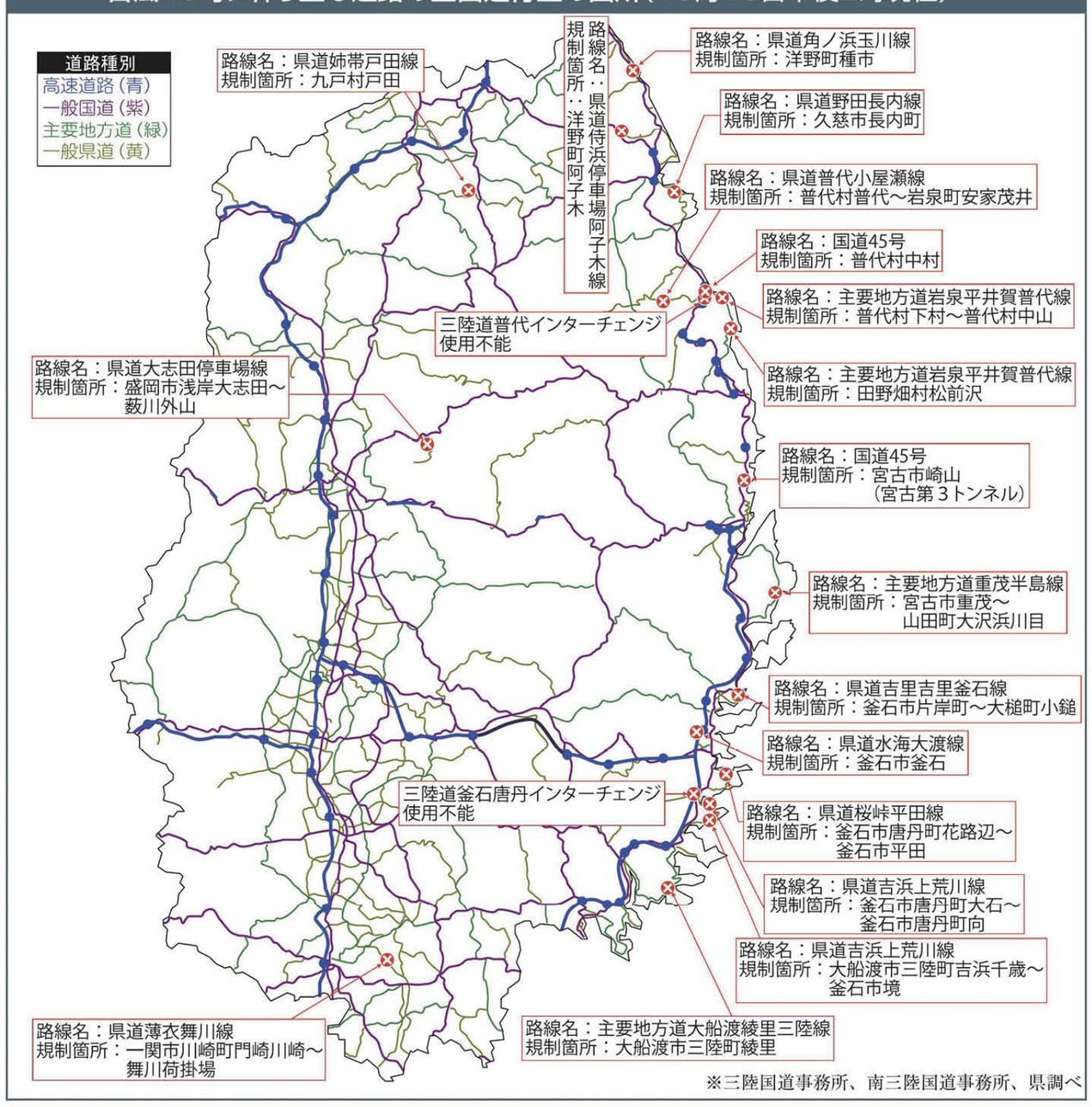
車検証有効期間 14市町村で延長

国交省

国土交通省は15日、台風19号で被害を受けた県内14市町村で、自動車の車検証の有効期間を延長すると発表した。

有効期間が15～28日に満了する車両が対象で、29日まで延長する。対象市町村は宮古、大船渡、久慈、一関、陸前高田、釜石、住田、大槌、山田、岩泉、田野畑、普代、野田、洋野。

台風19号に伴う主な道路の全面通行止め箇所（10月15日午後2時現在）



※三陸国道事務所、南三陸国道事務所、県調べ

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。